

留学先からの報告

2015/11/08

The Scripps Research Institute

荏田譲

研究室

通常の大学と同様、学期は9月からスタートするのですが、6/1から研究室入りしました。かなり早くから研究室に入った理由は、第一志望だった Phil Baran 研は学生の中で一番人気の研究室であったため、なるべく早めに到着して自分を売り込み、取ってもらえる可能性を少しでもあげようと思ったからです。しかし、いざ到着してみると、ようこそ Baran 研へ！これから5年間よろしくね！みたいな雰囲気、どの学生を取るかはもう決定されていた後のようでした（もう1人のカナダ人の同期は8/30に来ました）。日本にいる間にしつこくメールを送り、前の研究室のボスが Phil に口をきいてくれていたおかげだと思います。

有名教授という出張で忙しく、研究室にいないイメージでしたが Phil は全くその正反対でした。講演などへはあまり行かず、毎日朝6時から夕方17時まで研究室にいます。Open Lab というスタイルを取っており、いつでも何の用でも気軽に教授室に行って話ができます。逆に学生側から来ることを期待しているので、研究室のメンバーが集まって自分の進捗を報告する所謂グループミーティングのようなものではありません。学生17人ポスドク20人という巨大な研究室ですが、Phil はほぼ全員のテーマを把握しており、ディスカッションにいくとアイデアを嵐のように提案してくれます。気になっているプロジェクトがあると自分からその学生/ポスドクのデスクやベンチに毎日出向き、どう？反応いった？てかあれ試した？こてかれやった？のように、しつこいほど話しかけてきます。最近では全盛期に比べておとなしくなったそうですが、以前は測定室の外までついてきて、反応いった？いった？ときいてきたり、20分おきに反応の進行状況を聞きにきたりしたそうです。

Baran 研の学生は年齢にはかなりばらつきがありますが、修士をとってから Ph.D コースに入った人が多いです。修士号を持っていない学生でも、大学院相当の教育を既に受けている人や、企業経験を積んでから研究に戻ってきた人がほとんどです。皆とても頭が良く、自分の勉強不足を痛感させられました。皆化学の話が大好きで毎日あちこちでディスカッションしたり、下級生に反応機

構の問題を出してくれます。一部の学生は働き者で、毎日深夜 2 時まで実験し、日曜日にも普通に研究室に来ます。いつまでも“日本人は働き者だろう！”とも言っていられなさそうです。

実験室は日本より広く、1 人あたりの実験スペースも広く使えますが、全体的に小汚いです。実験機器の使い方も雑で、機器の数や質も日本の方が圧倒的に勝っています。ガラス器具など細々した小物も全然揃っておらず、ある物を組み合わせでなんとかするという方針なようです。試薬の質も悪く、溶媒を蒸発させると謎の固体が出てきたりします。さらに試薬の使い方も雑で、酸素や湿気に敏感な試薬は毎回自分で精製しないと使えない上に、なぜかそういった劣化しやすい試薬を 1 kg などの大ボトルで買いたがります。ようするに実験するだけなら日本の方が圧倒的に良い環境です。



電気，空調完備，無線 LAN 付き，風呂
トイレ共用

生活

Scripps はカリフォルニア州のサンディエゴ（アメリカの地図の一番左下）にあります。すぐそこにメキシコとの国境があるので治安が悪いかと思っていたのですが、ここはアメリカじゃないのではないかと思います。治安がいいです。具体的には夜中に女の人が 1 人でジョギングしているくらい治安がいいです（でも自転車を買って 2 週間で盗まれました アメリカの洗礼）。様々な人種の人があり、ミックスされた文化がのんびりとした雰囲気を生んだのかもしれません。

また、サンディエゴはぼちぼち田舎です。東京でいうと立川くらい、宮城でいうと長町くらいの栄え具合です。また、公共交通機関が壊滅的に使えないので何をするにも車が必要です。車を運転するのが怖かったので自転車で乗り切ろうと思っていましたが、上に書いたようなイベントもあり、1 ヶ月程度で挫折しました。今は車最高だと思っています。

（驚くことに）食べ物もおいしく、メキシカン、日本食、中華、韓国、タイ、ベトナム等、様々な食材が手に入り、レストランもいたるところにあります。

日系スーパーも 2 つほど近場にあり
ます。店内は完全に日本で、カップ麺、す
るめ、ポテチ、サロンパス、Curry
Pan(?) など、日本の普通のスーパーで
売っているような物は大方買えます。



アイエエエエ! なすび!? なすびナン
デ!?

授業

今学期は Modern Organic Synthesis と Antibiotics という 2 つの授業を取っ
ています。前者は基礎有機化学の授業で前半は Dale Boger, 後半は Ryan Shenvi
が担当しています。Boger の授業はクソだからと 2 年生以上の学生たちから聞
きましたが、日本で今まで受けた大学の授業と比べると圧倒的な素晴らしさし
かありませんでした。授業をちゃんとする、教科書をカバーする、そこそこの
進度で進む、日本人にとってはこれだけで十分神授業でした。そんなところで
満足していたところ、次の Shenvi の授業はもっと楽しいものでした。彼の授業
では、クラスをパリーポッターの 4 つの House+Beauxbatons(Scripps Florida
にいる人たち)の 5 組に分け、授業中の発言や小テストの点数によって House
に加点していく、という仕組みで進行します。この双方向的な感じがいかにもア
メリカという感じでした。実際授業はとてもわかりやすく、質問や発言内容は
忘れにくいのでとても効率的な授業だと思います。